

令和7年度 墨田区立梅若小学校 学校経営計画・経営報告書（自己評価・学校関係者評価）

作成者 校長 安藤 芳典

学校教育目標	人にやさしく、自分に強く
目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・梅若クオリティー 教育の質の向上を図る学校 ○児童一人一人を大切に、たしかな学力と豊かな心情を育成し、梅若小学校で学ぶ喜びと誇りのもてる教育質の高い学校 ・梅若プライド(誇り) 教育者としての誇りをもつ学校 ○梅若小学校教職員として自覚と使命をもって働く喜びと誇りを抱くことができる学校 ○多様な個性を認め、互いに協力し合い、支え合い、信頼し合える教職員と児童が家族のように温かい学校
目指す児童像	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら学ぼうとする意欲をもち、進んで挑戦する子供 ・学ぶことが楽しい、もっと知りたいと思えることが主体的な学習である。子供たちの学びの意欲が高まる教育を目指す。 ○よく聞き、しっかり伝え、お互いに大切にすること ・友達のことを知る、自分との違いを受け入れることから、円満な人間関係は始まる。一人一人を大切にすること ○自分の役割と責任を果たし、協力し合う子供 ・子供たち一人一人に適切な役割があり、達成し、完成させ、果たす満足感と責任感を味わわせ、自己肯定感を養う。
目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互が学び合うことで授業力を高め、授業の質の維持と向上を図る教師 ・プロ集団として、指導スキルの向上に努め、教育者としての誇りを高める教師 ・組織を活用してチームで対応する団結力のある温かい教員集団 ・活気のなかにも愛情をもって子供と関わり、温かくも厳しく指導する教師 ・教職員として自覚と使命をもち、保護者や地域から信頼される温かい教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容

1 人生と職業の選択幅をより広げるために学力の向上を図る<重点項目>

① 課題解決型の授業を実践し、自己の力で解決する時間と児童相互の学び合いの時間を確保した、主体的で対話的な深い学びの実現される授業を展開する。(全教科)特に練習問題を充実させることに重点を置く。(国算社理)

② 学力向上のために計画的な手立てを、組織的に取り組む。梅若学習スタンダードや朝昼学習の工夫、学習アプリ、九九道場、算数4展開などを活用して児童個別に最適化された手立てを通して学力の向上を図る。

③ 特別支援教室や日本語教室における指導で、課題解決型の授業を行ったり、J S L 指導を行ったりするための研究を深め、児童にとってより分かりやすく在籍 学級での学びが深まる指導を行う。

2 優しさと思いやり、感謝に溢れ、マナーやきまりを守って互いを大切にすることの教育の充実<最重点項目>

① 「時間を守って生活する」を重点目標とする。特に遅刻者の減少を重要改善課題として、遅刻者20%減少を目指す。

② 人権尊重教育を通して、人権感覚と人権実践力を高める指導を行う。思いやりの心を大切にすることの児童相互の豊かで温かな人間関係を築ける環境をつくる。

③ 心の教育の重点として、「あいさつ」、「ありがとう」、「ごめんなさい」、「きまりを守る」、「相手を思いやる」、「折り合いをつける」の励行を最重点として学年で手だてをもうけて取り組む。

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施する。 ①各教科で課題解決授業を実施する。 ②学び合いの時間を通し、考えを深め合う学習を行う。	①課題解決型授業を単元の半数以上行う。練習問題や復習問題を授業前後に必ず行い、基礎基本の定着を図る。 ②学級会と連携させ、児童同士が意見交換する時間を必ず設ける。 ・特別支援教室授業において、課題解決学習を行い、振り返りを重視したメタ認知を向上させ、退級目標に近づける。 ・日本語通級指導において、JSL指導の開発を行う。体験型、特別支援型指導を導入する。	4 課題解決指導法実施率70%以上	4	4 学力向上前年度比3%以上	4	・通常学級、特別支援教室、日本語学級ともに課題解決指導法が広く普及してきた。児童にも学び方が定着している。 ②学級会が各学年月に2回実施が定着した。 ③特別支援教室の学習において学習の振り返りを主体としたメタ認知に取り組んでいる。 ④日本語通級指導ではJSL評価を積極的に取り入れている。また、様々な工夫のある学習指導法を開発している。	・学習課題の提示方法を進化させ、児童から進んで意欲的に課題設定できるようにさせたい。 ②討論や意見表明を主体とした学級会を目指し、答えのない議題に対して最適解を選択できるようにさせたい。	B	B	・すべてが落ち着いた学級である。読み聞かせて毎週伺っているが、かつての梅若小学校を思うと積年の思いがある。 ・学校は子供たちの学力向上に熱心に取り組んでいるを評価したいと思います。 ・毎年12月の持久走を見学していますが、定期的に子供たちには寒くないのでしょうか。
			3 課題解決指導法実施率65%以上		3 学力向上前年度比2%以上						
			2 課題解決指導法実施率60%以上		2 学力向上前年度比1%以上						
			1 課題解決指導法実施率60%未満		1 学力向上前年度比同等もしくはそれ以下						
各教科指導等	特別な支援を必要とする子供に対して組織的な支援等を行う。 ①特別支援教室と日本語学級、通常学級との連携を綿密にする。 ②特別支援委員会を中心に個に応じた支援を行う。	①課題解決型指導を進めるため、月1回以上の支援教室、日本語、通常級の相互交流を行う。 ②月1回の委員会を開催し、組織的取組や外部連携を100%対象者に行う。	4 保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価90%以上	4	4 特支、日本語退級者全体の30%	2	①通常学級担任との連携は厚く、日常的に行われている。副担任として相互交流を行ってきたが、通常学級と通級学級との協業授業は行われなかった。 ②定期的に特別支援委員会を開催し、困り感に寄り添った。	①指導法や相互理解のさらなる連携深化のために、通常学級と通級学級との協業授業を行わなければならない。	B	B	・梅若の教職員に感謝していますし、応援しています。子供たちの命を守り、学校生活で成長の機会をたくさん与えていただき、「先生」というお仕事の大変さがありますが、子供たちが大人になったときに「梅若小学校楽しかった、あの先生で良かった。」と思ってくれると思います。いつもありがとうございます。
			3 保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価85%以上		3 特支、日本語退級者全体の25%						
			2 保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価80%以上		2 特支、日本語退級者全体の20%						
			1 保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価80%未満		1 特支、日本語退級者全体の20%未満						
各教科指導等	教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	①毎日の校内巡視や授業観察において全学級が課題解決指導法を	4 教員アンケートで授業力向上した、80%以上	4	4 児童アンケートで「勉強がわかりやすい」90%以上		①日々の333復習を行った結果、学力が大きく向上した。	①引き続き基礎基本の定着について徹底した対策が必要で			・学力向上も大切だが、心の教育にもなお一層取り組む

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
	①梅若学習スタイルを用いて全教員の授業水準を一定以上にする。 ②課題解決指導法研修会を行う。	行っている。振り返り期間で3日3週間3か月に応じた取組を行う。 ②校長による課題解決模範授業を年間10回以上行う。	3	教員アンケートで授業力向上した、75%以上	3	3	児童アンケートで「勉強がわかりやすい」85%以上	忘却のスタンスに沿った指導が有効である。 ②模範授業を12回行った。若手を中心に授業力向上の意欲が高まっている。	A	B	んでほしい。
			2	教員アンケートで授業力向上した、70%以上		2	児童アンケートで「勉強がわかりやすい」80%以上				
			1	教員アンケートで授業力向上した、70%未満		1	児童アンケートで「勉強がわかりやすい」80%未満				
	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組む。 ①梅若スタンダードを改定して重点指導を行う。 ②生活指導キャンペーンを年間通じて行う。	①各学級の重点指導項目の10%以上達成。 ②ありがとう月間、あいさつ運動、時間を守るうキャンペーン、マナーきまりを守るキャンペーン等を年間通じて行う。	4	各種キャンペーン年間5回以上	4	4	児童アンケートで「進んであいさつをする」90%以上	①梅若スタンダードを改定し、心の教育の充実を図った。 ②11月にありがとう月間を設定して各分掌で1か月間広く取り組みを行った。	A	B	・挨拶も含めて地域との関わりを深める手立てをとってほしい。
			3	各種キャンペーン年間4回以上		3	児童アンケートで「進んであいさつをする」85%以上				
			2	各種キャンペーン年間3回以上		2	児童アンケートで「進んであいさつをする」80%以上				
			1	各種キャンペーン年間3回未満		1	児童アンケートで「進んであいさつをする」80%未満				
生活指導等	いじめ、不登校等の予防や解決に向けた組織的な取組等を行う。 ①人権尊重教育研究を通して人権意識を向上させる。 ②特別支援委員会を月1回開催し全ての支援を組織的に行う。	①年度末、児童を対象に人権アンケートを実施し、昨年度比で向上させる。 ②いじめ・不登校問題においても対策委員会を開催し、組織的に解決する。	4	人権授業4回以上、その他取組3回以上	4	4	児童アンケートで「いじめはいけないこと」100%	①本年度はいじめ案件が減少したり、意地悪やいたずら案件が減少するなど人権意識の向上が感じられる。 ②組織的な解決が定着している。いじめ対策や特別支援などの委員会が機能した。	B	B	・インターネットやSNSを通じたいじめの対策が急務である。その対策をとってほしい。 ・ゲーム中毒が心配である。小学生の頃からの習慣が大きく影響する。何か対策はないものか。
			3	人権授業3回以上、その他取組3回以上		3	児童アンケートで「いじめはいけないこと」90%以上				
			2	人権授業3回以上、その他取組2回以上		2	児童アンケートで「いじめはいけないこと」85%以上				
			1	人権授業3回未満、その他取組2回未満		1	児童アンケートで「いじめはいけないこと」80%以下				
	危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。 ①安全指導を安全教育プログラムに沿って行う。 ②現実的で即応力育成に資する避難訓練等を実施する。	①指導のポイントやねらいをはっきりさせた安全指導を毎月行う。 ②外部連携型の訓練等を行い、校長講話との相乗効果を図る。	4	現実的で工夫した避難訓練を4回以上行った。	4	4	避難訓練振り返り「おかしも」を守った90%以上	①安全教育プログラムに沿った指導を定期的に、また適時的に行った。 ②真剣に避難訓練を行えた児童はアンケートから95%超であり、真剣な取り組みがなされている。	B	B	・若手担当者が避難訓練を工夫することの達成感や有用感を味わうことのできる学校経営や指導を行っていく。 ・地域を巻き込んだ避難訓練などを行ってほしい。
			3	現実的で工夫した避難訓練を3回以上行った。		3	避難訓練振り返り「おかしも」を守った85%以上				
			2	現実的で工夫した避難訓練を1回以上行った。		2	避難訓練振り返り「おかしも」を守った80%以上				
			1	例年通りの避難訓練しか行わなかった。		1	避難訓練振り返り「おかしも」を守った80%未満				

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価			
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等	
	子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行う。 ①学校経営計画に基づいた学級目標の作成。 ②自己申告及び学校評価における目標達成度評価。	①6月末までに学級目標の全学級作成。 ②1月末までに目標達成度80%	4	教員の自己申告による達成度評価80%以上	3	4	児童アンケート「学校が楽しい」90%以上	①当初自己申告によって全学級が目標を作成し、振り返りを行った。 ②当初自己申告の目標を概ね85%以上達成している。	①学級目標が抽象的で評価しづらいものの改善が必要。 ②学校が楽しい」アンケートに12%弱が回答していることについて原因を調査して解決を図る。	B	B	・学校が楽しい児童が88%程度であることは課題がある。よく子供たちの話を聞いてほしい。
			3	教員の自己申告による達成度評価70%以上		3	児童アンケート「学校が楽しい」85%以上					
			2	教員の自己申告による達成度評価60%以上		2	児童アンケート「学校が楽しい」80%以上					
			1	教員の自己申告による達成度評価60%未満		1	児童アンケート「学校が楽しい」80%未満					
学校の管理運営	適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整える。 ①学級間相互連絡体制を整備する。 ②セキュリティの向上を図る。	①年度末までに、相互連絡可能なインターフォン(IF)を各教室に設置し危機管理に資する。 ②来校者管理マニュアルを強化、遂行し来校者の出所、素性を把握する。	4	保護者評価肯定的評価90%以上	3	4	保護者評価「安全管理は適切か」肯定的90%以上	・令和7年7月頃から隣接するマンション建設のため土台が傾斜した影響で正門が閉まらなくなった。校門新設工事を依頼したが、令和8年1月までかかった。	・正門の不備により保護者評価は著しく低下した。しかしながら最新式の正門が完成し、セキュリティは向上した。	C	B	・正門の工事に時間がかかり、セキュリティ上の課題が長く続いたことは問題だ。何もなかったからすむものの、迅速な対応を求める。 ・新しい正門では不便を感じません。
			3	保護者評価肯定的評価85%以上		3	保護者評価「安全管理は適切か」肯定的85%以上					
			2	保護者評価肯定的評価80%以上		2	保護者評価「安全管理は適切か」肯定的80%以上					
			1	保護者評価肯定的評価80%未満		1	保護者評価「安全管理は適切か」肯定的80%未満					
	教員の教育力、人間力向上のための取組等 ①教員間の交流と研修のため、主幹会や主任会、組織的OJTを行う。 ②区小研や外部研修など自己研鑽させる。	①若手授業研究会を開催し、教員間の意思疎通や授業検討、研修会などを行う。 ②一人1回以上外部研修に参加する。	4	教員の自己申告による向上実感度あり60%	4	4	保護者評価「わかりやすい授業をしているか」肯定的85%以上	①若手研究会を若手が自主的に開催し15回以上となった。 ②指導教諭や外部研究会、区小研などに参加する教員が多くなった。一人1回以上参加している。	①日程的な段取りが悪く、参加者が少なかったり、授業直前となることがあった。主体性を増すよう指導していく。 ②教師道場への参加意欲が比較的高い。	B	B	・特になし
			3	教員の自己申告による向上実感度あり50%		3	保護者評価「わかりやすい授業をしているか」肯定的80%以上					
			2	教員の自己申告による向上実感度あり40%		2	保護者評価「わかりやすい授業をしているか」肯定的75%以上					
			1	教員の自己申告による向上実感度あり40%未満		1	保護者評価「わかりやすい授業をしているか」肯定的75%未満					
	教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行う。 ①学校便りをより工夫する。 ②HPやCOC00を工夫して、これまで以上に情報発信する。	①学校便りを毎月25日に発行し、保護者のニーズに応じる。 ②HPやCOC00において配布物や日々の情報を細かく発信する。	4	HPの更新、全学年月1回以上	3	4	保護者評価「分かりやすく伝えている」肯定的評価85%以上	①保護者の予定を早く知りたいニーズに応えた。 ②COC00の利用頻度が高くなった。反面、HPの更新の頻度が下がってきた。	②HPの魅力を増し、閲覧される数を増やす手立てをとる。	B	B	・COC00の垂れ流し問題がある。頻繁な配信は、保護者の慣れを生み、特に必要なことまで流されてしまう危険性がある。
			3	HPの更新、全学年月0.9回以上		3	保護者評価「分かりやすく伝えている」肯定的評価80%以上					
			2	HPの更新、全学年月0.8回以上		2	保護者評価「分かりやすく伝えている」肯定的評価75%以上					
			1	HPの更新、全学年月0.8回未満		1	保護者評価「分かりやすく伝えている」肯定的評価75%未満					
家庭・地域連携	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行う。 ①ボランティアによる読み聞かせ活動を行う。 ②PTA主催の子供行事を工夫し、教員の参加を図る。	①毎週1回朝学習時に全学級で読み聞かせ活動を行う。 ②PTA行事や地域行事に教職員を70%以上参加させる。	4	地域保護者の学校参観者前年度比10%向上	4	4	保護者評価「理解を得よう努めている」肯定的評価85%以上	①地域との連携で読み聞かせの連携や挨拶運動、学校運営連絡協議会との協力が踏れた。 ②PTA主催の行事は日曜日にもかかわらず75%の教職員が参加した。	①地域の方々と保護者、学校の関係や距離感が徐々に離れつつあると感じる。学校公開に読み聞かせを行うなど周知の手立てをとる必要がある。	B	B	・いつも子供たちのためにありがとうございます。今後も地域とともに地域に根ざした学校作り運営を期待します。
			3	地域保護者の学校参観者前年度比5%向上		3	保護者評価「理解を得よう努めている」肯定的評価80%以上					
			2	地域保護者の学校参観者前年度比横ばい		2	保護者評価「理解を得よう努めている」肯定的評価75%以上					
			1	地域保護者の学校参観者前年度比減少		1	保護者評価「理解を得よう努めている」肯定的評価75%未満					
	関係諸機関との連携 ①巡回相談やSC, SSWとの連携を常時行う。 ②地元警察や民生委員、児童相談所、子育て支援センター等との連携を図る。	①月1回の特別支援委員会で連携を報告する。 ②年間3回以上のケース会議等を行う。	4	特別支援委員会開催10回以上	4	4	保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価85%以上	①日頃から外部関係機関との連携は密に行ってきた。特支委員会やケース会議を通して地域の課題に取り組んでいる。	①関係者以外が秘密や個人情報に触れる危険性があるため、全教員への共通理解がなかなか果たせない。生活指導会議等を使って共通理解を図る。	B	B	・日頃から学童クラブとの連携、ありがとうございます。情報などを共有させていただいています。大変心強く思っております。引き続き学校と児童館と協力し合い、地域で子供を育てることができたらと思います。
			3	特別支援委員会開催9回		3	保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価80%以上					
			2	特別支援委員会開催8回		2	保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価75%以上					
			1	特別支援委員会開催8回未満		1	保護者評価「一人一人に応じた指導」肯定的評価75%未満					

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）

・今年度は非常に多くの成果を得た。学力向上とともに心の教育の重要性が明らかになり、その改善に組織で保護者、地域とともに取り組めたことである。教職員一人一人の組織貢献度が高く、協力し合う温かい職場を維持できたことは子供たちの教育に計り知れない良い影響を与えている。今後はさらに地域との連携を模索して地域で子供たちを育てる取組みを充実させる必要を感じている。学校のみならず地域ぐるみの組織で様々な課題に取り組んでいきたい。